

ハートがたくさんの村づくり

差別のない、人への思いやりを大切にする、
明るい南阿蘇村をつくりましょう。



人権とはなんですか？

人権とは「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持っている権利」であって、だれにとっても大切なもの、日常の思いやりの心によって守られなければならないものです。今回は、「男女共同参画から見た熊本地震」についてお伝えします。



災害時の課題

平成28年4月に発生した熊本地震について、男女共同参画の視点から分析・検討した結果を取りまとめた報告書の一部を紹介します。

災害は、地震、津波、風水害などの自然現象(自然要因)とそれを受け止める側の社会の在り方(社会要因)により、その被害の大きさが決まってくると考えられており、災害時には平時における社会の課題が一層顕著になって現れる。

その際、性別、年齢や障害の有無など、さまざまな社会的立場によって災害から受ける影響は異なることから、これらの視点を通して、社会要因による災害時の困難を最小限にする取り組みが重要となる。

例えば、これまでの災害の経験から、災害時においては、

①男性、女性という性別を理由として役割を固定的に分ける意識(固定的性別役割分担意識)から、家事や子育て、介護等の増大する家庭的責任が女性に集中し、ストレスや心身の不調を抱えやすい一方、家族を経済的に支え、守るのは自分の役割であるとの意識が強い男性が、その責任を抱え込み追い詰められやすいこと

②男女のニーズの違いや子育て家庭介護を必要とする家庭の事情などが十分配慮されず、必要な支援や物資が提供されないこと

③意思決定の場への女性の参画割合が低く、予防(平時)、応急、復旧・復興の各場面において女性の意見

が反映されにくいこと

④⑤(省略)

などの問題が明らかになっているが、これらは全て平時の男女共同参画の課題が災害時に表出したものである。また、女性(男性)に傾向として認められる問題においては、男性(女性)が同様に問題を抱えている可能性にも留意すべきである(例:男性で介護を担っている人、男性の非正規雇用者、父子家庭などの困難)。

男女共同参画の視点からの防災

このような災害時の課題を解決、もしくは未然に防ぐために、男女で異なる災害から受ける影響に配慮することや、防災・復興の主體的な担い手として女性を位置づけることなどを通じて、地域における生活者などの多様な視点から、防災対策を考え、実施し、地域の防災力を高めていくことが、男女共同参画の視点からの防災である。

その具体的な取り組みとしては、例えば以下のような取り組みが挙げられる。

①性別によって、困難傾向やニーズに違いがあるという事実に対する認識を深める

②(省略)

③家庭・地域・組織において人々が担っている役割・責任に違いがあり、発言力にも格差が存在しているという事実を前提に、災害対応に従事する人員の配置、被災者ニーズの把握及び災害対応に関する意思決定を行う

④(省略)

⑤予防、応急、復旧・復興のいずれの場面においても、女性の意思決定の場への参画が、災害対応と支援の質を上げるために重要であるということを認識する

このように男女共同参画の視点からの防災に取り組むことで、被災者の多様なニーズに対応することが可能となり、大規模災害による避難生活の改善にもつながるなど、被災者支援の質が全般的に高まることで、より多くの命や暮らしが守られることとなる。さらに、さまざまな視点に配慮するためには、多様な主体が連携することが求められるため、被災者支援に関わる各主体間の連携の強化にもつながる。生活者である多様な被災者の立場から対応を続けていくことにより、生活再建・住宅再建・復興まちづくりなどの、復興局面における諸課題への効果的な対策にもつながっていくものと考えられる。(以下、省略)

この報告書から、どのようなことを感じましたか?復興に向けて、みんなで協力し頑張りましょう。

なお、報告書の詳細は、内閣府男女共同参画局「男女共同参画の視点による平成28年熊本地震対応状況調査」を(参照ください)。

http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/kumamoto_h28_research.html

村民みんなで「ハートがたくさんの村」をつくりましょう。

役場 人権対策課